



県立中央病院における敷地内禁煙の実施について

近年、「たばこ」の害に関する情報が世間を賑わせているところですが、WHO（世界保健機関）では平成15年5月21日の総会本会議において加盟191か国の全会一致でFCTC（たばこ対策枠組み条約；禁煙支援の推進、たばこ広告の禁止、たばこ税・価格の引き上げ等）を採択しました。

国内においても、平成15年7月1日からたばこの値段が1本当たり1円程度値上げされました。

また、平成15年5月1日からは健康増進法が施行され、その25条において「学校、体育館、病院…その他の多数の者が利用する施設を管理する者は、…受動喫煙を防止するため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。」と定められております。

さらに、本県では、健康文化やまがた21の中で喫煙習慣からの脱却及び職域での分煙や禁煙を徹底することを謳っております。

日本医師会では、平成15年3月30日に禁煙推進に関する日本医師会宣言を採択しており、日本癌学会においても平成15年9月に禁煙宣言が採択されました。このほか、日本呼吸器学会、日本公衆衛生学会、日本循環器学会をはじめとする多くの学会で勧告や宣言が出されております。

このような動きを受け、当病院といたしましても禁煙推進委員会を組織し検討を重ねて参りました。県立がん・生活習慣病センターを併設している当病院といたしましては、禁煙対策に本格的に取り組むことを決意し、来院者や職員等をたばこの害（受動喫煙を含む）から守るため、平成16年1月1日から敷地内はすべて禁煙にすることを決定した次第です。

県民の皆様には趣旨をご理解のうえ、敷地内禁煙に御協力をお願いいたします。

院 長

禁煙を行うにあたって手助けしてくれるものとして、ニコチンガムやニコチンパッチがあります。ニコチンガムは、薬局で誰でも買うことができ手軽に使えますが、いつも口をもぐもぐしていなければならないので、いつでもどこでも使えるわけではありません。またニコチンパッチは、周囲にはわかりませんが、医師の処方箋が必要となります。当院では、禁煙を行いたい方に、ニコチンパッチの処方をしております。お考えの方は、ご相談ください。

なお、たばこの有害性について一言触れておき

ますと、たばこの煙には、約4,000種類以上の化学成分が含まれておりますが、このうち有害物質として認定されているものは200種類に上り、そのうち40種類以上が発癌物質であることがわかっております。よく知られている喫煙関連疾患として、肺がん、心血管障害（心筋梗塞や狭心症）、肺気腫等がありますが、口腔、咽頭、肝臓、大腸、膀胱がんなど、全身のがんの発生率も高まるとともに、これらの影響は、受動喫煙によりたばこを吸わない人にもあると言われております。



高額医療機器の共同利用による検査の受け入れについて

■ 本病院における体制



今年度6月から当病院において高額医療機器を地域の登録医療機関と共に有効的に利用しようということで新たに体制を整えました。従来までも共同利用はしていたのですが完全にオープンという建前はとっていなかったため一部の医療機関しか利用していませんでした。

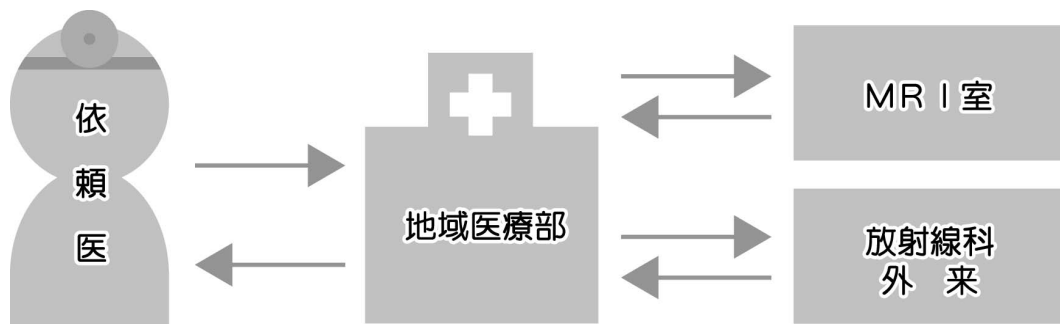
今年度からは、CT・MR・RIにおいて登録紹介医は所定の手続きをとればある程度の待ち時間をおいて検査ができるように体制を整えました。上記の3つの検査は設備に多大な投資が必要であり個人の医療機関ではなかなか設置するのは難しいと思われます。特に当院に設置されている装置はいずれも最高水準に近いものばかりですので、これらの装置を利用できることは地域住民への医療サービスにも繋がることなのでとても良いことであると思われます。これらの検査結果には当然ながら当院の放射線科医のレポートも添付されますのでより良い医療情報が地域の医療機関に提供されます。しかしながら、当院の検査を妨げるようでは意味がありませんのでスタッフ一同そのような事がないように気を配っております。

申し込み方法は、下図に概略を示したとおりです。まず、申し込み医は地域医療部にFAXにて申し込みます、地域医療部はCT・MRの場合はMR室に、RIの場合は放射線科外来にFAXで送り、日時が決まり次第、地域医療部に送り返し依頼医にFAXにて返事をお返しします。すべて、FAXでのやり取りになっているのはトラブルが発生しないために記録を残すためです。

もし、今後近くの医療機関から当院にて検査をする場合どのような手続きで検査が出来るのかなどと質問されましたら、配布してあるFAX用紙に必要事項を記載してとりあえず地域医療部に送付して下さるよう説明して頂ければ幸いです。

当院放射線部スタッフ一同、患者様が快く検査を受けられるよう努力しております。もし足りない点がありましたらアドバイスを一言下さるようお願いいたします。

記 小野





外来だより

Fブロック

Fブロックは腕に自信のあるドクター陣、藤娘（4人共姓に藤がついている）4人のナース親切対応のクラーク3人で、朝から夕方遅くまでがんばっています。質問形式で紹介します。

質問：Fブロックには何科があるのですか？

答え：Fブロックには、外科、心臓血管外科（火・水・金）、呼吸器外科（火・水・金）があります。

質問：専門外来はあるのですか？

答え：あります

乳腺外来：水曜日の午前

乳癌の増加と昨年9月のマスコミ報道の影響により、乳腺外来を受診する方が増加しています。予約外の紹介患者で待ち時間が3時間になることもあります。

月・火は18時頃まで外来をしています。

ストーマ外来：水曜日15時から予約制

心臓血管外科：下肢静脈瘤の治療として、治療用のストッキング装着、静脈硬化療法、静脈高位結さつ術を水曜日に外来手術として3～4例行っています。

質問：手術件数はどの位あるのですか？

答え：毎年増えています。H15年の外科・呼吸器外科手術件数は1249件でした。胃・胆石・肺・大腸・乳の件数が多いです。臨時手術は194件ありました。1週間の手術件数は外科・心臓血管外科・呼吸器外科の合計で約30件です。

質問：手術はすぐ予約できるのですか？

答え：できません。

全身麻酔の手術は緊急以外は大体1ヶ月待ちになっています。

腰椎麻酔の手術（ソケイヘルニア・肛門疾患）は1ヶ月半待ちになっています。

質問：麻酔科では診察しているのですか？

答え：ブロックの受付に麻酔科と表示が出ていますが外来はしていません。

質問：その他で特徴的な点はありますか？

答え：あります。

外来で抗癌剤の点滴を行う患者様が多くいらっしゃいます。7～8人、多いときは10人で2時間半～5時間の治療を行っています。現在は狭い空間と狭いベッドで治療を行っていますが、できるだけ安楽な環境を提供できるようにしていきたいと思っています。

質問：Fブロックの見学は出来ますか？

答え：是非いらしてください。水曜日が1番忙しく、1番見ていただきたい曜日です。

今後ともFブロックをよろしく願いいたします。



病棟だより

● 4階東病棟

4階東病棟は、当院きって？の美人師長である山川師長、ちょっと難しそうで実はお茶目な阿部先生をはじめとし、医師4名、看護師4名、准看護師2名、助産師20名の計30名のスタッフでなっています。病床は産科、婦人科を中心とし、放射線科RI室1床を含む48床で構成されています。その他に陣痛室2室、分娩室3室がありますので、分娩数が多い時などは最大53名の患者様がいらっしやることとなります。

分娩部門はNICU、GCUと直結しており、県内外からの母体輸送や緊急帝王切開などの際には迅速かつきめ細やかな対応が可能になっています。搬送用ヘリコプターの利用率は病院内でも1、2位を争うところであり、東北の周産期医療の中核を成しているとスタッフ一同自負しています。

産科は切迫流早産や胎児の発育が思わしくない患者様などが主で、点滴やベッド上安静の方が多く、ストレスを感じやすくなっている患者様のもとへ明るく優しく美しいスタッフが日夜お世話に伺っております。一般的な疾患の看護と異なるのは、これから母親となる患者様に出産や育児のことなどについて母と子2人分の知識やアドバイスを提供していくところです。もちろん出産後の寝不足なお母様方に、赤ちゃんってこんなもの、育児ってこんなに楽しいことも大変なこともあるのよと励ましたり共感したり、おばあちゃん的な役割を担ったりもしています。また、病棟内だけにとどまらず、外来の母親学級や両親学級などにも病棟スタッフが積極的に協力し、産後に至るまでの継続的な看護に生かしています。妊娠13週からはマタニティボックスも希望者に提供されており、妊娠中のストレス発散や体力づくりに役立てていただいております。助産師がインストラクターとして指導にあたっている施設は県内でも数ヶ所だけで、参加者の皆様からご好評をいただいております。

婦人科は手術を目的としていらっしゃる方や、治療のために入退院を繰り返す方が多いので、少しでも不安が軽くなるよう受け持ちのスタッフが継続して担当させていただいて患者様のニーズに合わせた看護を心掛けております。女性の方ばかりなので、時には状態の安定した患者様同士で散歩をしたり、手芸をしたり、という光景も見受けられます。

このように明るく活気にあふれた4東病棟をぜひ1度ご覧になってください。

● 4階西病棟

4階西病棟は、小児科・形成外科・眼科合わせて46床です。小児科には、脳外科・泌尿器科・耳鼻科・外科・心臓外科・整形外科等の小児全般が入院します。形成外科も小児の入院が多く、あかちゃんから御高齢のかたまで、幅広い年齢層の患者様と、その御家族様に笑顔で対応しております。小児ならではの年間行事として、笹の香りとみんなの願いが短冊にあふれる七夕会や、院長先生扮するサンタさんからの愛情いっぱいプレゼントに、笑顔がこぼれるクリスマス会があります。昨年はTUY「どよまん体操」の結城アナが来て盛り上げてくれました。その結城アナも、逆に患者様から感動をもらって嬉しいと話してくれました。その他にも毎月ボランティア（たんぼぼの会の皆様）のご厚意で、人形劇やお話などのお楽しみ会が開かれます。今でこそ病院ボランティアが身近にありますが、たんぼぼの会の皆様はその草分けであり、情緒豊かな演出に子供たちも大喜びです。また去年は、夢のような出来事がありました。あの、ミッキーとミニーマウスが病棟の子供たちのために魔法を使ってやってきてくれたのです！4階ディールームはひとときディズニーの世界となりました。夢と感動、笑いと涙につつまれ、「願いはきっとかなう！」と誰もが夢見心地で信じてしまったのでした。

「出羽ギャラリー」には患者様が作ってくださった作品も展示され、春夏秋冬の彩りで楽しい掲示板や、スタッフ手作りのお雛様、お月見うさぎ、鏡もち、クリスマスリースなど力作ぞろいです。ぜひ見に行ってください。ちょっとした一角にも置いてある、季節を彩る鉢植えやお花も、心を和ませてくれますよ。

優しくふんわりと包んでくれる看護師長はじめ、明るく若々しい？看護師24名と、子供たちを優しく見守る小児科医師、未来を明るく照らし希望を与える眼科医師、熱傷のことならおまかせ、あらゆる美を追求する形成外科医、そのチームワークの良さはピカいちです。新しいものや情報を取り入れ、研修会にも積極的に参加し、みんなで学んでいこうという風土を大切にしながら、いつも仲良くあたたかい4階西病棟なのであります。



じょくそう 褥瘡回診から

褥瘡^{じょくそう}とは、いわゆる床ずれのことです。以前は褥創^{じょくそう}とも言うていて、瘡^か（内部要因に伴う壊死、痂皮、おでき）、創^ひ（刀キズ、外傷による創）と区別していましたが、現在は、褥瘡に統一されています。

原因は、単なる圧迫×時間によるものから応力（圧縮、せん断、引っ張り）×時間によるものになってきました。簡単に述べますと、圧をかけ、細い血管を裂き、皮下を剥がし、表面を擦り、これに湿潤環境が加わると褥瘡になりやすくなります。予防及び治療は、これらを排除することから始まります。

ある日の褥瘡回診。
午後1時30分、外来Eブロック前集合です。
『今日は、何人いますか。』
『では、9階から。』



病棟にて。
『褥瘡回診です。カルテをお願いします。』
『担当の看護師さん、患者さんの病名、状態説明をお願いします。』
『現在どのような処置行っていますか。』
『じゃ実際に処置をお願いします。』
『この状態は、デザイン（DESIGN）で表すと、どの深度ですか。』

『手袋してください。よく手を洗ってください。』
『処置は、このように行ってください。』



褥瘡回診は、毎月、第二火曜日午後から各病棟に伺っています。メンバーは、形成外科太田と皮膚科の石川先生、安達副看護部長さん、主任看護師さん、当番看護師さん、薬剤師の遠藤さん、栄養給食係長の佐藤さん等です。

夕方4時45分ころようやく回診が終わります。

『最近患者数が減ったのと程度が軽くなってよかったね。』

『そうですね、まだまだの病棟もありますので、対策をするようにします。』

『よろしくをお願いします。』

『では、お疲れ様でした。』

私が褥瘡と初めてかかわったのは、昭和57年1月でした。患者さんは、脊髄損傷の方で仙骨部部分に大きな潰瘍があり、イソジンで消毒し、滲出液が多く油紙を行い、感染による臭いが強く処置の度に大変困っていました。看護師さんは、せっせと円座を作り、蒸したオイルでマッサージを行っていました。現在との治療法の違いわかるでしょうか。手術は、壊死組織を切除し骨を削り、両側の大臀筋皮弁により被覆されました。これは、大変な疾患だなと思ったものです。当時は、病棟の往診で、
『床ずれは、どうしようもない。』
『病気が治るためには、しょうがない。』
『看護が悪いんだ。』
『褥瘡対策に金をかけても無駄だ。』
云々が、主流でした。



こうした中、平成10年日本褥瘡学会が設立され、褥瘡は、看護の恥ではなく、多方面からの協力とアプローチが必要であるとし、平成11年第一回の日本褥瘡学会が開催されました。本院でも平成14年に褥瘡対策委員会が設置され、活動することになりました。

委員は全部で17名、医師4名（形成外科、皮膚科、内科、救急科）、事務方2名（事務局次長、医事係長）、中央検査部（技師長）、看護部（副看護部長、主任5名、看護師2名）、薬剤部、栄養給食（係長）で構成されています。

褥瘡回診の翌週に、患者さんの写真を含め現状の問題点等協議しています。この中で、細菌の問題や体位変換、栄養状態の改善等に直接主治医等を交え、改善方法を協議しています。これに伴い重症例が減り、軽症例が散見されるようになりました。



一般的には、わが国における褥瘡発生率は、急性期を含めた全病院・施設で4.2%、長期療養型病院・施設では、5.5%、在宅医療では、7%といわれています。本院に於いては、ICUが当初、新規発生率が6.1%から1.7%にCCU、SCU、HCUが4.7%から1.7%に減少し、全体でも緩和ケアを除いた新規発生率は、0.8%と良好になってきています。この点でも、皆さんの努力及び御協力に感謝しています。今後さらに予防に努めまた発生したものに對し、早期治療を目指し

てソフト、ハードいずれも改善していくつもりです。今後ともよろしくお願いします。

形成外科 医長 太田 勝 哉

外来診療案内

窓口受付時間

午前8:00～11:30
ただし、眼科の水・木曜日の受付は、11:00まで

この病院で始めて診察を受ける時は

総合受付（初診受付）に診察申込書と問診票及び紹介状（紹介状をお持ちの方）を提出のうえ、受付してください。なお、総合窓口受付開始時間までは所定の受付ボックスに入れてください。

再来の時は

予約の有無に関わらず、再来受付機で受付してください。受付票と診察券を受け取り、各科外来ブロック等にお越しください。
（再来受付機は、午前7時30分からご利用できます。）

各診療科を始めて受診する時は

総合受付（再来受付）に所定の問診票を提出のうえ、受付してください。

診察券をお持ちでない方は

総合案内又は、再来受付に申し出てください。診察券は全科共通で、永久使用しますので大切に保管してください。

保険証は・・・

総合受付（再来受付）又は、各科ブロック受付に必ずご提示ください。

- ①月が変わって初めて診察を受ける時
- ②保険証が変わった時
- ③住所・電話番号等が変わった時

*** 保険証のご提示がないと全額自己負担になる場合があります。***

ブロック	診療科	診療曜日
A	内科	月火水木金
	循環器科	月火水木金
B	整形外科	月火水木金
	眼科	月火水木金
C	歯科口腔外科	月火水木金
	脳神経外科	月火水木金
	泌尿器科	月火水木金
	心療内科	月火水木金
D	神経内科	月火水木金
	産婦人科	月火水木金
	耳鼻咽喉科	月火水木金
E	小児科	月火水木金
	皮膚科	月火水木金
F	形成外科	火水木
	外科	月火水木金
	呼吸器外科	火水金
	心臓血管外科	火水金
放射線科	放射線科	月水金

外来診察に係る電話予約及び予約変更については、地域医療部で受け付けております。

TEL 023(685)2620 (13時～16時)

FAX予約も受け付けております。待ち時間も少なくてすみませので「かかりつけの先生」を通してお申し込みください。

FAX 023(685)2606 (8時30分～17時)

人間ドックで健康チェック!

県立中央病院の人間ドックでは診療各科の専門医による検査と診断を行っています。基本のコースの他にさまざまなオプション検査も実施しております。あなたのライフスタイルに合わせてお選び下さい。

コース	内容	実施日	料金（税込）
1日コース	内科診察・身体諸計測、胸部X線検査、心電図検査、肺機能検査、血圧測定、上部消化管X線撮影、便潜血、腹部エコー検査、血糖検査、血液検査（肝機能、代謝、血液像、腎機能、肝炎など）、婦人科（女性）など	金	男性 41,790円 女性 45,210円
1泊2日（Aコース）	胃内視鏡検査、大腸内視鏡検査をセット。基本は1日コースに準じますが、各項目ともより精度の高い検査となります。また男性は前立腺PSA検査、女性には乳がん検査をセット。	月～火 水～木	男性 87,630円 女性 92,460円
1泊2日（Bコース）	血糖検査に糖負荷試験が加わるコースです。消化器は上部消化管X線撮影になります。基本は1日コースに準じますが、各項目ともより精度の高い検査となります。男性は前立腺PSA検査、女性には乳がん検査をセット。	月～火 水～木	男性 74,280円 女性 79,110円
2泊3日コース	胃内視鏡検査、大腸内視鏡検査（全結腸）をコースにセット、眼科、耳鼻科、泌尿器科、皮膚科、歯科、の検査・診察も行います。豊富な検査項目でより充実した検査をゆったりとした日程で。	水～金	男性 132,790円 女性 131,840円

オプション検査 ○頭部MRI・頭頸部MRA検査 ○胸部ヘリカルCT ○骨塩定量検査 ○歯科検診○喀痰細胞診 ○前立腺PSA検査 ○乳腺X線撮影（各検査とも料金別途となります。）

※ドックは完全予約制です。数に限りがありますのでお早めにご予約下さい。

ご予約・お問い合わせは 病院3階 がん・生活習慣病センター事務室 電話 023(685)2616 FAX 023(685)2605